

「緑内障の方はお薬を出せません」 と言われたことがありますか？

内科、その他の科で緑内障の方は使えないとなっている薬剤があります。
緑内障に禁忌(使ってはいけません)の薬剤は全薬剤の5~7%で、以下の薬剤があります。

- ①ステロイド薬
- ②散瞳作用のある薬剤(抗アレルギー薬、抗不安薬、睡眠薬、かぜ薬、
心臓の薬、気管支拡張薬など)

緑内障は目の形から解剖学的に2つのタイプに大別されます。眼の中を循環している房水の出口を隅角(角膜と虹彩の間の角度)と呼び、せまい方は散瞳の影響でよりせまくなり、広い方は散瞳の影響をあまり受けません。あなたがどちらのタイプかは、主治医にお尋ねください。他科の医師や薬剤師にも自分の緑内障のタイプを伝えておくと思役につきます。

①の場合

ステロイド(内服・軟膏・点眼など)は隅角の広さに関係なく眼圧が上昇することがあります。前もって眼圧が上昇するか分からないため、ステロイドの治療を開始した後1ヶ月以内に眼圧を測定しましょう。

②の場合

私は閉塞隅角または狭隅角です。(隅角がせまい)

②に該当する薬剤を使用した場合、眼圧が上がることがあります。但し、レーザー虹彩切開術、周辺虹彩切除術、白内障手術をして隅角が広くなった方は使用しても心配ありません。

私は開放隅角です。(隅角が広い)

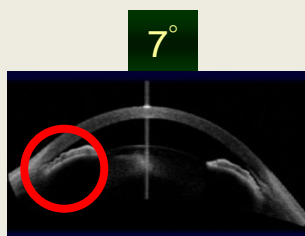
②に該当する薬剤を使用しても心配ありません。

平成 年 月 日現在の結果です。隅角は加齢とともに狭くなるので、5年以上経過したら再検査をして下さい。

もし、緑内障発作を起こしたら、痛み、見えない、頭痛、吐き気などの症状がでます。そのような場合は、放置せずにすぐに眼科に連絡をしましょう。診察時間外であれば、緊急に救急に受診しても良いです。

隅角の広さを前眼部OCTという機械で観察し、角度を評価したものです。

狭隅角眼



レーザー虹彩切開術後



白内障手術後



隅角の広さはおおむね30°以上あれば心配ありません。
白内障手術をすることにより隅角が広がります。